

新工法・新技術など約450件集結、2日間で1.5万人来場

最新の建設技術が集結した「建設技術展2014近畿」（主催＝日刊建設工業新聞社、近畿建設協会、特別共催＝土木学会関西支部、地盤工学会関西支部）が10月29、30の両日、大阪市中央区のマイドームおおさかで開かれた。テーマは「ええもん（技術）使こてええもん創ろ！」。橋梁模型製作コンテストやフォーラム、学生のためのキャリア支援など多彩なイベントも繰り広げられ、2日間で約1万5000人が来場した。（大阪支社）

建設技術展2014近畿

■技術展示

技術展示には、国や高速道路会社、建設コンサルタント、ゼネコン、建設関係団体、メーカーなど169の企業・団体が出展。▽防災▽環境▽コスト削減▽安心・安全▽施工▽VIT・ロボット▽団体▽学校への8分野に分かれ、約450件の新技術や新工法などを紹介した。大学や高等専門学校、高校なども研究成果を披露した。

■イベント

恒例の橋梁模型製作コンテストには会場製作部門に8チーム、事前に模型を製作する学生部門に38チームが参加。29日午前10時30分から会場製作が始まり、7チームが制限時間内に模型を完成させた。両部門とも30日午前に載荷試験が行われ、会場製作部門は25kg、学生部門は30kgの重りに1分間耐えられたかを確認。壊れたチームからはため息が漏れた。

土木学会関西支部は29日、市民らを対象に「土木実験・プレゼン大会」を行い、シオラマ模型を使って学校の校庭に貯水施設がある場合とない場合の雨水の流れの違いや、鋼管杭を使った粘り強い構造の防潮壁の効果

を模型で説明。ほかにもトラス構造はなぜ強いかなどについてわかりやすく解説した。近畿地方整備局や兵庫県、高速道路会社、鉄道会社、建設コンサルタント、建設関係団体、橋梁メーカーらが参加した「学生のためのキャリア支援」相談のりまです。将来への道「30」は30日に実施。就職の参考にしようとする多くの学生が担当者の説明に耳を傾けた。

■フォーラム・シンポジウム

阪神大震災から来年1月17日で20年を迎えるのを前に、関西ライフライン研究会と土木学会

小俣委員長が注目技術賞のエスアールジータカミヤに賞状授与



橋梁模型最優秀は阪神高速会社、吉野高校

関西支部、地盤工学会関西支部が「来るべき巨大地震にいかに対応するか」を共通テーマに「阪神・淡路大震災20年地震防災フォーラム」を開催。29日は電気やガス、水道、通信、鉄道事業者をパネリストに迎え、大地震への備えを話し合ったほか、沖村孝神戸大名教授による基調講演も行われた。30日午前には地震動や液状化、火災などの地震被害、午後は土木構造物設計や老朽化対策など設計実務や防災に関する取り組みが報告された。

29日には阪神高速道路会社が「阪神高速の過去・現在・未来」をテーマに阪神高速道路開通50周年記念シンポジウムを開催。坂下泰幸執行役員が「阪神高速の歩み」と題して基調講演し、

注目技術賞にエスアールジータカミヤ、国際航業

「注目技術賞」は次の通り。エスアールジータカミヤ、国際航業、災害復旧・改良復旧事業におけるICT（情報通信技術）の活用が受賞。橋梁模型製作コンテストは阪神高速道路「阪神高速VII Bridge」チームが会場製作部門、奈良県立吉野高等学校「よしのA」チームが学生部門の最優秀賞に輝き、注目技術賞審査委員長を務めた小俣近畿地方整備局企画部長と、橋梁模型コンテスト審査委員長飯塚敦神戸大工学部都市安全研究センター教授が各賞の受賞者に賞状を贈呈した。

小俣委員長は「防災・減災や老朽化対策、担い手確保などさまざまな話題の提供や技術展示を行っていただいた。産学官が結果として関西の底力を見せていただき、皆さんの熱い思いに感銘を受けた2日間だった。ぜひこの力を使って建設業界の未来をさらに明るくしていきたい」と講評した。

技術展示の受賞者（出展者と技術名）は次の通り。
〈注目技術賞〉
▽エスアールジータカミヤ 次世代足場Iqシステム
▽国際航業 災害復旧・改良復旧事業におけるICT（情報通信技術）の活用
〈審査委員特別賞〉
▽NIPPON 前田工機IIA スパルト舗装の地震対策型段差抑制工法
▽大林組II 高耐久海水練りコンクリート
▽日本パーツセンター、神鋼 建材工業II 津波・漂流物防護柵「津波ガード」津波キーパー
▽関西鉄筋工業協同組合、近畿建設躯体工業協同組合、日本プラスチック工業会II 安全に筋を通す職人がいます！「ベストブリス賞」
▽関西鉄筋工業協同組合、近畿建設躯体工業協同組合、日本プラスチック工業会



阪神・淡路大震災20年地震防災フォーラム



橋梁模型製作コンテストの載荷試験